

事業概要

■事業経過

平成23年4月	事業着手
平成24年7月	基本構想の策定
平成25年3月	基本計画の答申
平成25年5月	建設地の決定
平成26年10月～平成27年2月	用地買収
平成28年5月	設計完了
平成29年1月	工事着工
平成30年12月	工事完了
平成31年2月	庁舎開庁

■事業費

設計監理費	90,903,600円
建設工事費	1,745,763,840円
用地補償費	135,337,768円
その他	120,992,218円
総事業費	2,092,997,426円

■事業財源

国庫補助金	20,421,000円
庁舎等建設基金	1,005,000,000円
町債	589,200,000円
一般財源	478,376,426円

〒374-0192

群馬県邑楽郡板倉町大字板倉2682番地1

TEL 0276-82-1111 FAX 0276-82-1300

URL <http://www.town.itakura.gunma.jp>

E-mail info@town.itakura.gunma.jp

◆開庁日・時間／平日・午前8:30～午後5:15

◆閉庁日／土曜・日曜・祝日・年末年始

◆窓口業務

1階／福祉課、健康介護課、住民環境課、税務課、会計課

2階／総務課、企画財政課、産業振興課、都市建設課、教育委員会事務局

3階／議会事務局

建物概要

■建物概要

敷地面積	14,872.69㎡
建築面積	1,814.54㎡
延床面積	4,084.02㎡
階数	地上3階、塔屋(高さ17m)
構造種別	鉄筋コンクリート造 (一部プレストレストコンクリート造梁)
構造方式	耐震構造

■施工業者

設計監理	(株)松田平田設計
建築工事	河本・徳川共同企業体
電気、非常用電源設備工事	JESCO SUGAYA(株)
機械設備工事	ヤマト・神寛共同企業体
造成工事1期	尾崎建設(株)
造成工事2期	(有)坂田建設
外構工事	福地建設(有)
植栽工事	熊倉造園土木(株)



板倉町イメージキャラクター
「いたくらん」



板倉町役場新庁舎案内

 板倉町

次世代へつなぐまちの新たな拠点



板倉町長
栗原 実

ごあいさつ

新元号への改元が近づく平成31年2月、板倉町役場新庁舎が開庁となりました。これも町民皆様を始め、関係各位のご協力の賜物と厚く感謝申し上げます。

昭和30年2月1日、伊奈良・海老瀬・西谷田・大箇野の4村が合併して板倉町が誕生し、その3年後、役場庁舎が建設されています。時代の変化により、老朽化、狭隘化、利便性の向上、災害拠点と心のよりどころ等々、庁舎としての問題点が指摘されてまいりました。今日まで60余年の長きにわたり町民の皆様と時代の喜怒哀楽を見つめ続けてきた建物だと思いますと感慨深いものがありました。町民皆様のご理解と合意をいただき、約8年の計画・検討・建設期間を経て、新庁舎の完成に至ったものです。

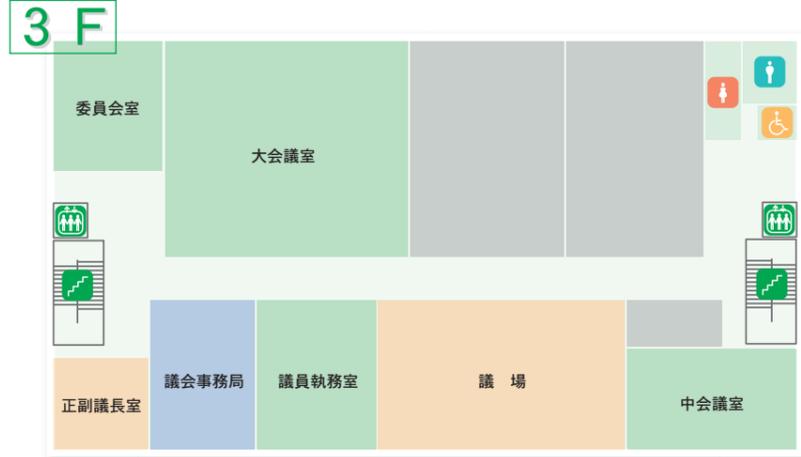
新旧庁舎を比較しますと、敷地面積は駐車スペースを確保するため1.7倍の約15,000㎡、延べ床面積は3か所に分散していた庁舎を集約するため1.9倍の約4,100㎡、建設費は時代や規模、設備等の違いはありますが旧役場3庁舎の約10倍の20億円となりました。災害時の備えとして、72時間対応の自家発電機や防災ラジオ基地局を整備しました。また、環境面への配慮として建物にひさしを取り入れ空調エネルギーの削減や雨水利用のトイレなどの機能も導入しました。

開庁を機に、改めて、優しさと活気溢れる町民サービスの拠点として、また安全安心防災の拠点としての役場を目指し、町民皆様と一体となった行政運営を進める所存でございますので、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年2月

誰もが使いやすく、町民サービスの向上を目指した庁舎

- ▶ 来庁者が分かりやすい目的に応じた明快な階構成
- ▶ 各階の執務室を1か所に集約し執務連携を高め、サービス向上を図ります



3 F・多目的に使えるフラットな議場



3 F・一時避難スペースとして活用する大会議室



1 Fから3 Fまで吹き抜けの階段



新庁舎全景

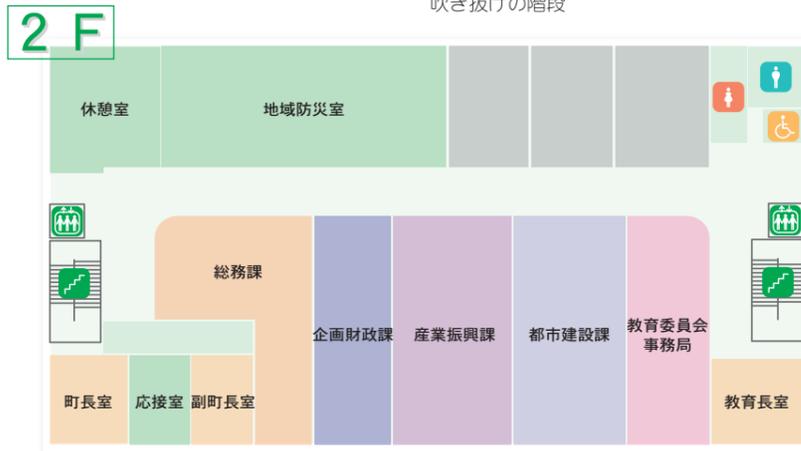
- ▶ 柱の少ない正形でシンプルなつくりにより建物の汎用性を高め、将来の用途変更にも柔軟に対応し建物の有効活用を図ります



2 F・町長室



2 F・災害対策本部として機能する地域防災室



1 F・明るく快適な待合ロビー



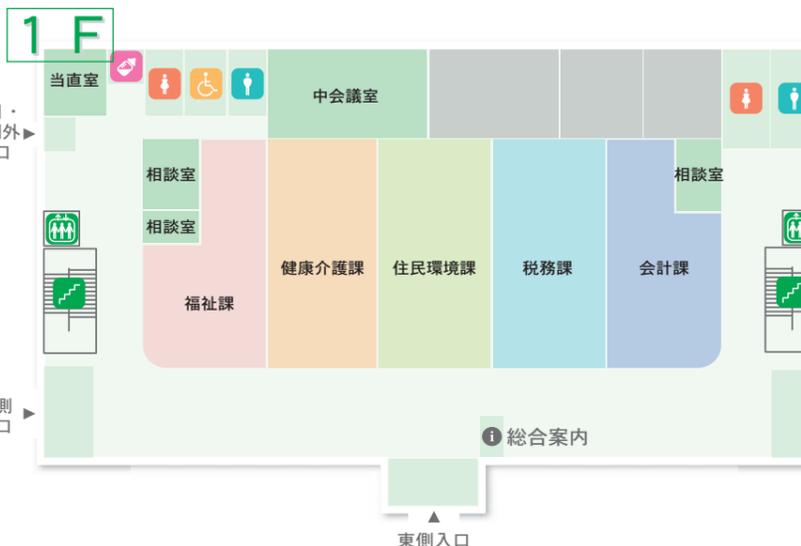
1 F・プライバシーに配慮した相談室



1 F・乳幼児を連れてかたでも安心な授乳室



各階に設置しているだれでもトイレ



防災・災害復旧拠点として安全に機能を維持する庁舎

- ▶ 浸水シミュレーションの結果から庁舎の地盤を周囲より1m高くし、重要設備は2階以上に設けた水害に強い庁舎
- ▶ 3日間電力供給する非常用発電機により、災害時に確実な機能維持を担保
- ▶ 防災ラジオ放送設備（広域防災無線基地局）により素早く災害情報を発信



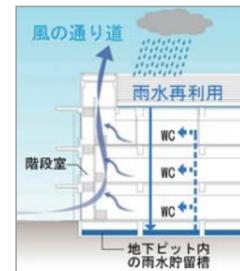
非常用発電機



防災ラジオ放送設備

自然エネルギーの利用・省エネ対策を取り入れた庁舎

- ▶ 階段室を風の通り道として活用し、自然換気による冷房期間を短縮
- ▶ 屋上で集水した雨水をトイレの洗浄水に再利用
- ▶ 建物全周のひさしにより、夏場の強い日射を遮蔽し、空調エネルギーを削減



階段室の自然換気、雨水再利用



エコデザインを取り入れひさしによる日射遮蔽

周辺施設と相互連携を図り、町の新たな拠点となる庁舎

- ▶ 敷地の中央に庁舎を配置し、周辺施設との連携や相互利用を促進
- ▶ 大きな駐車場や広場は、町の行事や各種イベントが開催できる場所として、町のにぎわいを創出
- ▶ 歩車分離に配慮した安全な車両・歩行者動線

